

北東アジア・コミュニティの設立によせて：日本の友人たちへ

北東アジア・コミュニティの設立に向けた新しい頁を切り開くに際し、3月11日の大震災とそれに続く原発被災の犠牲者の方々に心より深い哀悼の意を表します。これは日本と日本の人々にとって実に大変な事態だと思います。大震災から立ち直り、炉心溶融を乗り越えるにはかなりの時間がかかることと思いますが、私は日本の方々とそのシステムを強く信頼しており、みなさまが物質的にも心理的にも先例のないスケールで生じた苦難を克服するだろうと確信しています。私たちの心痛と祈りは、特に震災に見舞われた人々、そして原発のある場所、もしくはその近くでこの際どい状況を収めようと自らの命を賭している方々に向けられます。

他方で、日本がいま直面している危機は、私たちが通常考えている以上に地域が緊密に結びついていることをみなに知らしめました。皮肉にも、北東アジア地域において、将来をともに生きるための協力がもっとも必要であることがはっきりとしたと思います。

私たちは2011年3月24日にソウルで北東アジア・コミュニティ設立のための新しいコンソーシアムをたちあげたばかりです。中国、日本、韓国、ロシア、米国から著名な学者、知識人、シンクタンク関係者が、北東アジア地域の将来にむけ叡智を結集すべくコンソーシアムに参加しました。コンソーシアムで得られたコンセンサスは、この地域にはいかなる制度的空間がまだまだ存在しないこと、私たちの将来についてあまりに悲観的な考えが地域に行きわたりすぎていること、たとえ差し迫った問題が解決されていなくても、誰かがどこかで手遅れにならないうちに未来をともに準備しはじめるべきだということでした。コンソーシアムは、トップダウンよりもボトムアップによって作られた行動指向型のプログラムに多くの関心を有します。同時にコンソーシアムは短期的な成果を期待していません。コンソーシアムは、長期的な目標と理想の実現を目指し、あらゆる立場の人々が自由に集い意見を交換しうる実体的な制度的空間を創出すべく作業を始めます。

このプロジェクトが何らかの実体的な成果をもたらすためには長い時間がかかるでしょう。しかし、このことは私たちによるプロジェクトの立ち上げを妨げません。楽観主義者のみが何をなしうるか知ることができるのですから。私たちが確信するのは、現実主義は悲観主義と同じではなく、未来への希望のみが地域のコミュニティ設立のための新しい芽生えを育むということです。

私たちは北東アジアのよりよき未来をつくろうとする精神をわかちあえる、いかなる個人や組織の参加を心より歓迎します。

2011年4月11日

ワシントン大学ジャクソン・スクール（国際学部）教授

ソウル大学教授(Affiliated Professor)

河龍出 (Yong Chool Ha)